



インドにおける犯罪

神戸大学 経済経営研究所
教授 佐藤 隆広

はじめに

先日、インドに駐在している友人（女性）から電話があった。彼女によると、彼女の会社が入居しているビルの同じフロアでオフィスを構えている知人が「タイヤ・パンク・ギャング」（これについては後述します）による窃盗被害に遭って、インド入管発行の居住者証明書、パスポートや財布などをあらかた盗まれたそうだ。わたしが2014年に同様の被害に遭ったことを知っている彼女は、その知人に対するアドバイスをわたしに求めてきたのだった。わたしは、すでに、わたしが経験した犯罪による被害とその後の対応についてパワーポイント資料を作成しており、それを犯罪被害に遭った知人に転送してもらい、いまずぐにわたしのアドバイスが必要であれば電話で話すこともできることを彼女に伝えた。彼女と電話でやり取りしたあと、すぐに、彼女の知人の方から電話があった。

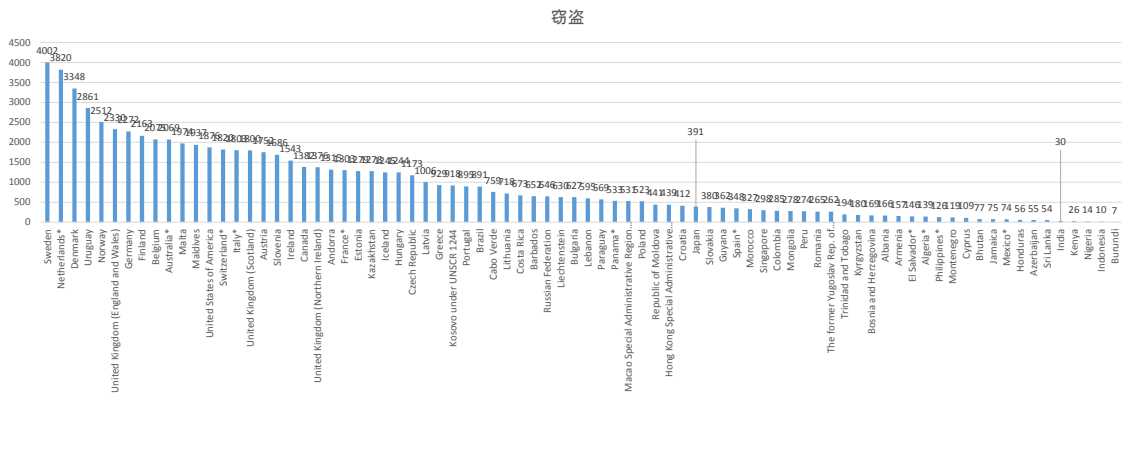
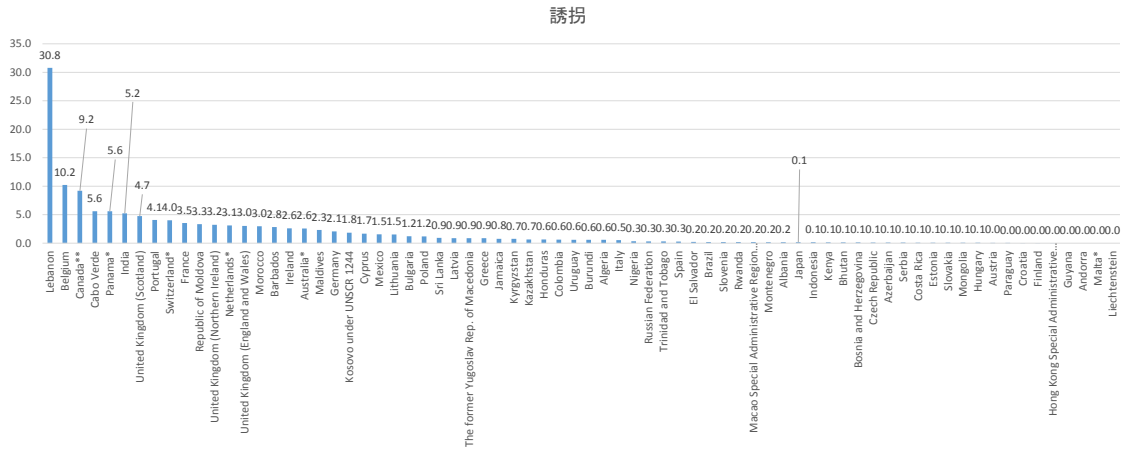
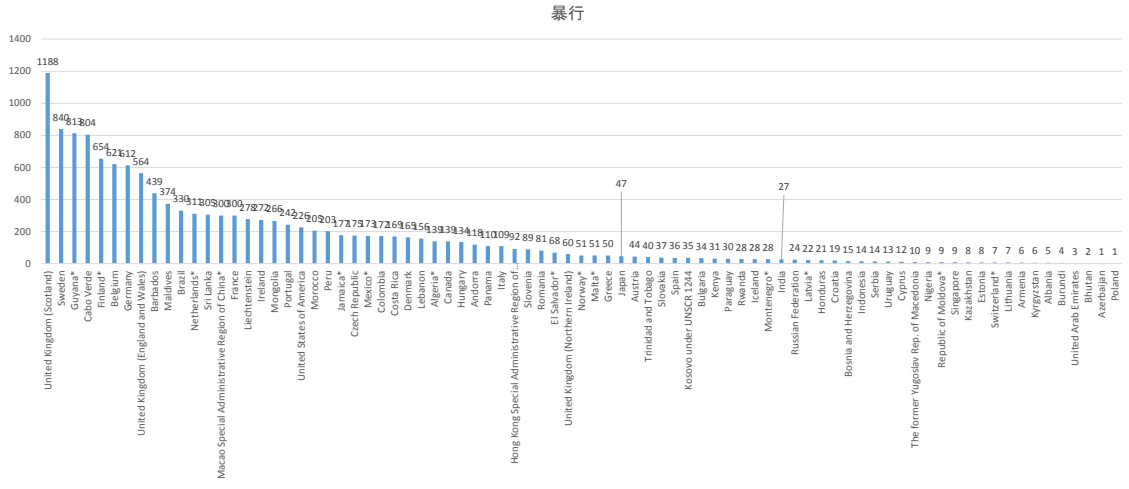
電話で会話した印象であるが、彼女の知人（男性）は社会的にも高く評価されてこられた立派な方であることがすぐに分かった。彼は、わたしが2014年に遭遇したのと全く同様の手口の犯罪の被害に遭っており、とても他人事とは思えなかった。わたしは、以下で紹介するわたしの経験を彼にお話して、今回の事件はプロの窃盗集団による犯行であり、決してご自分の過失を責めないように励ました。

犯罪被害者はまず直接的な犯罪被害だけではなく、仕事の遅延を始めとして関係者へ迷惑をかけてしまったことによる自責の念や後悔の感情にも苛まれます。さらに、ただでさえ取得に時間と労力が必要なインド入管からの居住者証明書の再発行では、窓口のインド人役人の冷たい仕打ちに遭って、絶望的な気持ちになることもあります。実際、わたしはパスポートを盗難された白人の青年が、インド入管の冷酷な対応に絶望して号泣している現場を目撃したことすらあります。

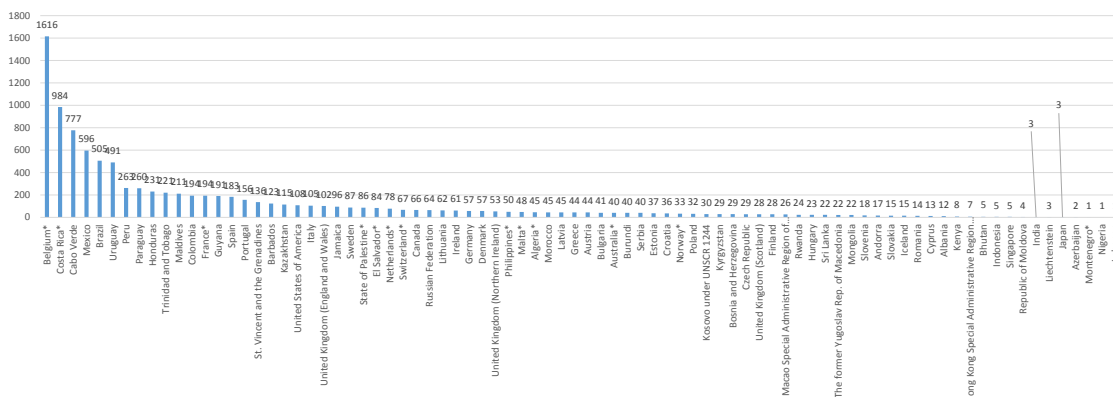
インドの犯罪

わたしの経験を紹介する前に、世界の犯罪概況を国連統計を通じて検討してみます。

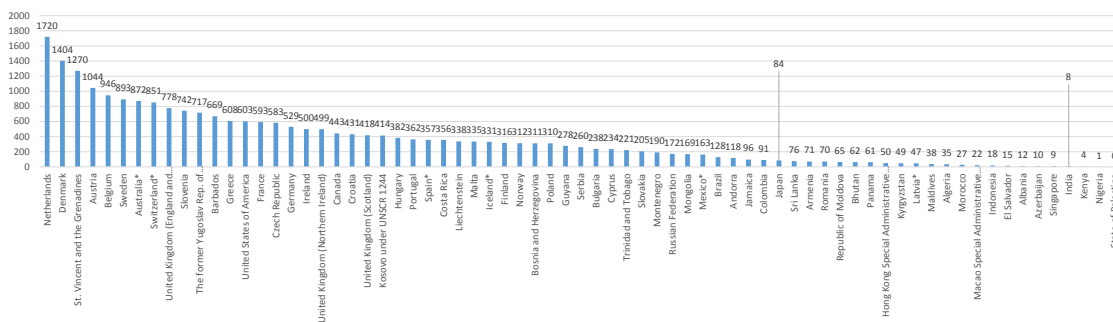
図表 1：世界の犯罪（単位：2013年の10万人当たり犯罪件数）



強盗



不法目的侵入



資料：United Nations Office on Drugs and Crime, *Statistics on Crime*.

暴行件数をみると日本では10万人当たり47件、インドでは27件、窃盗件数だと日本で391件、インドはわずか30件、強盗件数は日印両国ともに3件、不法目的侵入件数だと日本で84件、インドで8件となっています。暴行・窃盗・強盗・不法目的侵入などの犯罪では、インドの犯罪件数が世界のなかでも相対的に少ない部類に入ることがわかります。世界的にみてインドで多い犯罪は、誘拐であり、その件数は5.2件です。日本の誘拐件数は0.1件となっている。

一度でもインドに訪問したことのある人には、犯罪が少ないことに違和感を持つはず。とりわけ、窃盗件数が日本よりもインドで少ないのは、実感とかけ離れています。こうした実感と犯罪統計の乖離の原因は、インドにおける犯罪認知率の低さに起因しています。国連の研究によれば、各国の犯罪認知率に大きな差があることがわかります。図表2をみると、1990年代のインドのボンベイ（現ムンバイ）における犯罪被害者の実態調査では窃盗の認知率はわずか5.7%に過ぎません。94.3%もの窃盗は、犯罪としては「認知」されず公的な犯罪統計には出てこないのです。

こうした認知率の低さが、犯罪被害者にとって持つ意味は後述したいと思います。

図表 2 :

犯罪認知率(単位: %)											
	車両窃盗	車からの置引き	車両器物破損	オートバイ窃盗	自転車窃盗	不法目的侵入	計画された不法目的侵入	強盗	窃盗	性犯罪	暴行・脅迫
South Africa	88.5	49.7	40.8	-	13.0	59.1	40.5	34.3	14.4	27.3	18.8
Johannesburg											
Tanzania	100.0	71.1	73.2	86.7	81.7	74.3	53.3	65.8	28.4	28.6	66.0
Dar Es Salaam											
Uganda	89.2	48.9	37.1	66.7	51.6	49.1	35.5	27.8	8.7	14.0	21.1
Kampala											
Sub-Saharan Africa	92.6	56.6	50.4	76.7	48.8	60.8	43.1	42.6	17.2	23.3	35.3
Egypt	69.2	47.9	26.3	58.8	22.9	13.3	22.7	33.8	21.2	2.5	16.7
Cairo											
Tunisia	91.4	65.0	42.7	67.7	41.9	53.8	38.5	45.2	30.9	32.7	47.2
Tunis											
North Africa	80.3	56.5	34.5	63.3	32.4	33.6	30.6	39.5	26.0	17.6	31.9
Argentina	92.6	51.8	20.5	82.4	41.2	70.2	37.3	43.1	15.5	45.6	40.5
Buenos Aires											
Brazil	92.0	18.3	0.9	65.0	7.1	38.4	19.5	20.2	11.3	9.8	11.5
Rio de Janeiro											
Costa Rica	70.0	22.1	18.2	91.7	36.2	50.8	23.8	27.6	18.4	9.3	29.9
Latin America	84.9	30.7	13.2	79.7	28.2	53.1	26.9	30.3	15.1	21.6	27.3
China	100.0	27.6	0.0	60.0	45.3	56.7	26.8	37.1	19.1	7.6	36.3
Beijing											
The Philippines	85.7	25.3	25.0	100.0	23.0	31.6	10.7	41.9	13.7	16.7	39.5
Manila											
India	53.8	51.1	46.7	50.0	50.0	32.9	0.0	21.4	5.7	5.3	29.6
Bombay											
Indonesia	92.0	32.5	13.7	85.7	4.4	33.0	14.5	25.4	38.5	2.6	15.0
Jakarta											
Asia	82.9	34.1	21.4	73.9	30.7	38.6	13.0	31.5	19.3	8.1	30.1
Papua New Guinea	74.9	49.8	66.0	30.9	35.7	51.1	54.5	52.9	31.9	47.2	47.9
Asia/ Pacific	81.3	37.3	30.3	65.3	31.7	41.1	21.3	35.7	21.8	15.9	33.7

http://www.unicri.it/services/library_documentation/publications/icvs/publications/UNICRI_recent_publications.html

被害者からみたインドの犯罪

わたしの経験をつぎに紹介します。事件の概要は以下のようになっています。

事件発生日：2014年11月15日土曜日、午後4時半

被害者：佐藤隆広（ジャワハルラー・ネルー大学客員研究員）

場所：The Sun Dial (Indraparshtha, Block B, Ganga Vihar, Sarai Kale Khan New Delhi)に接する環状道路の路肩

犯罪：タイヤ・パンク・ギャングによる窃盗

被害：貴重品が全て入ったバックパック、新品のスーツケース、タイヤの損傷

犯罪手口：(1) あらかじめ狙いを定めた車をなにかしらの手段を講じてパンクをさせる（われわれのケースでは釘が利用された）。(2) 仲間が窃盗を迅速に行いやすいように、パンクした車を特定の場所に誘導（われわれのケースではフルフェイスの2人乗りのオートバイがパンクをわれわれに知らせた）。(3) タイヤ交換中に被害者の注意をそらして、その間にロックのかかっていないドアを開け瞬時に車中の貴重品を盗む（われわれのケースではヒンディー語でバス停への道を聞いた若いインド人がわれわれの注意を30秒から2分程度逸らした）。

友人で共同研究をしている先生の自宅に招聘され、トヨタのミニバンであるイノーバでインドで最も有名なコンベンションホールを持っている Indian International Centre から UP 州のノイダに移動している最中の出来事でした。トヨタのイノーバは招聘して下さった先生の自家用車です。お抱え運転手ともわたしは顔見知りで、週末土曜日ということもあり、かなりリラックスして車で移動していました。ちょうど、その日のお昼は、緑に恵まれた Indian International Centre のレストランでの会食でした。天皇陛下が皇太子時代の 1960 年に Indian International Centre の記念植林を行い、2014 年 3 月に陛下が半世紀ぶりに再訪されたばかりでした。Indian International Centre は日本の国際文化会館をモデルに建築されています。わたしは、そこの格式あるレストランで日本人の研究者の先生方と楽しい会話を楽しみながら食事をとっていました。あとから振り返ると、まさに「好事魔多し」でした。

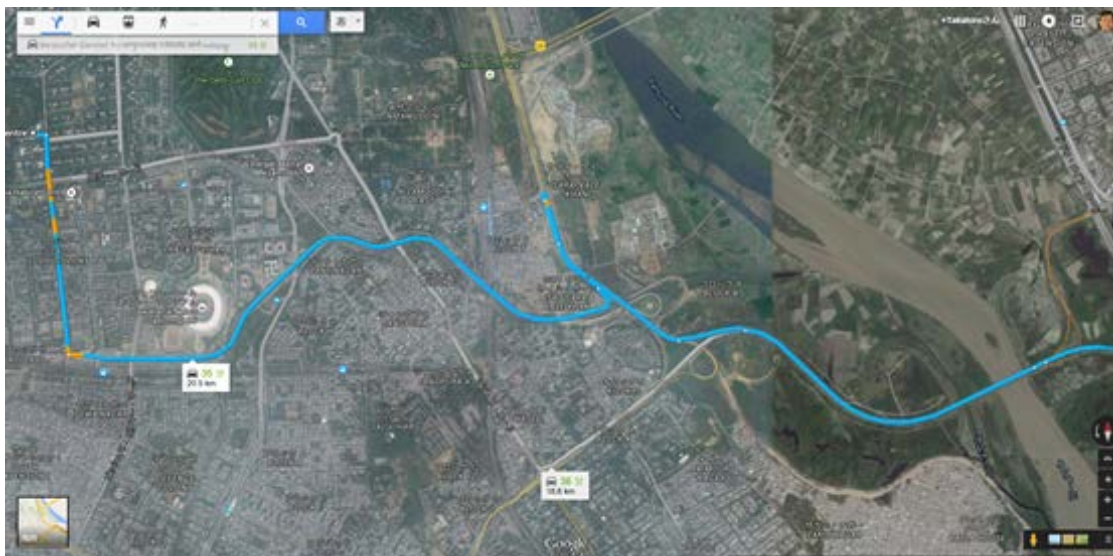
図表 3 : Indian International Centre の場所



資料：グーグルマップ。

図表 4 の左手にある Indian International Centre から下記のルートを通して、右手にある UP 州のノイダに向かっていました。デリーから UP 州に行くには、図表 4 の右側にあるヤムナ河を渡る必要があります。事件は、この途中の道路で起きました（図表 4 のちょうど真ん中あたりです）。

図表4：Indian International Centre からノイダへのルート



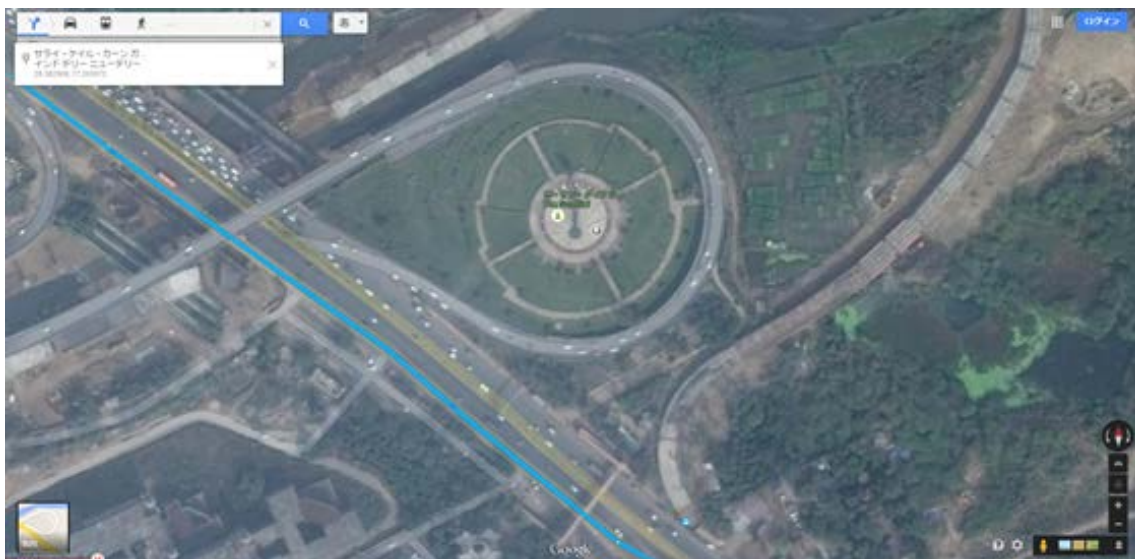
資料：グーグルマップ。

出発してから20～30分して、スポーツタイプのオートバイを運転しているフルフェイス型ヘルメットを被っている2人組から、走行中のわれわれに向かって、車のタイヤがパンクしているという知らせがありました。片側2車線のところを3台の車で走ったりするのがインドの道路事情なのですが、駐車をするような路肩も見当たらず、しかるべき場所を探してそのまま数分間ぐらいパンクのままで走行せざるを得ませんでした。ようやく、路肩に車が駐車できるところが見つかり、そこに駐車しました。それが、**The Sun Dial** という巨大な日時計のオブジェがあるところでした。ここは、日時計を中心にしたすり鉢状になっています。日時計に向かって下り坂になっているので、なかには駐車できませんが、通行の邪魔をしないような絶妙なスペースがあり、その路肩に駐車しました。したがって、駐車した車のすぐ右側には車やオートバイが切れ目なく走行していました（インドは日本と同様に、車は左側通行です）。

タイヤは、見事にパンクしていました。タイヤ交換をするためにジャッキで車を持ち上げる必要がありますし、なにより、運転者のタイヤ交換の手伝いをしようと思ひ、（いまから考えると大変迂闊でしたが）車中にバックパックを置いたまま、車右側のドアのロックもせずに、車から降りてしまいました。パンクしたタイヤをみると、新品の釘が突き刺さっていました。

タイヤ交換しているときに、日時計の方向から若いインド人青年が歩いてきました。タイヤ交換の手伝いをしていたわたしに、ヒンディーで何か質問してきました（バスという単語があったので、バス停を探しているようでした）。この間、せいぜい長くて2、3分のことだったと思います。わたしは、日時計方向に立っているその青年に対して（すなわちわたしは車に背を向けて）「わたしはヒンディーはできないし、バス停がどこにあるのか知らない」ということを英語で話しました。これくらい簡単な英語だとデリーの若いひとは理解できるのですが、彼は分かったような分からないような顔をしていました。やがて、彼は道路の方に向かって立ち去って行きました。

図表 5 : 日時計



資料：グーグルマップ。

その青年が立ち去ってから40分後ぐらいして、ようやくタイヤ交換が終了しました。運転者はびしょびしょになるほど汗をかいていました。「グッジョブ」と慰労の言葉をかけ、わたしは車の座席に座りました。座ってすぐに、なにか、変な感じがしました。最初は、バックパックが窃盗に遭っていることなど想定もしていなかったので、車中でバックパックを探しました。「あるはずだ」と思って、実際には「ない」というのは一種の恐怖です。窃盗であることを認識したのは、そんなに時間はかかりませんでした。

同乗していた日本人の先生から、携帯電話を借り、すぐに日本にいる家人に電話をして、わたしはすべてのカード使用を無効にしました（同乗した先生は幸運なことに、購入した新品のスーツケースを盗難されただけでした）。そして、自宅の夕食に招聘してくださった共同研究の先生に電話で事情を説明し、その後、いったんノイダの自宅に寄って、すぐに共同研究者の先生と一緒に最寄りの警察署に向かいました。盗難届けを出すためです。

事件発生の最寄りの警察署に直行しました。残念ながら、そこは管轄外ということで、事件発生場所を管轄している警察署に向かいました。実は、あとから、わたしの友人のインド人研究者夫妻に聞くと、被害届けはどの警察署であっても受理しなければならないそうでした。以下、時系列で被害発生後の状況をまとめておきます。

(1) 11月15日事件発生直後に、すべてのカード利用の停止+警察署へ被害届の提出。前者は極めてスムーズに行うことができた（日本にいる家人がカード番号を全て控えていて迅速に停止できた）。後者については最寄りの警察署に行ったが事件発生現場の所轄外ということで、図表6のサンライト・コロニー警察署に行くことになった。

図表 6 : 犯罪被害届けを出した警察署



資料 : <http://www.malhan.in/malhanone-corporate/images/malhan-one-08.jpg>

(2)被害届け提出中に、カード会社に連絡。携帯電話を通じて本人確認をしたうえで、海外緊急用のカードの再発行が承認された。4営業日でシンガポールからカードが届くことになった。ただし、受け取りにあたっては受取人のサインが必要。わたしの共同研究者の先生が受取人になってくれた。

(3) 日本大使館関係者に連絡。パスポート再発行で協力をしてもらう。

(4) 11月16日曜日、パスポート再発行などの証明用写真を取得(3.5×4.5のサイズ)。

(5) 11月17日月曜日、警察からの犯罪被害証明書(First Information Report: FIR)を前日受け取った共同研究者の先生から受け取る。通常、このFIRの取得に時間がかかり、そのあとの諸手続きが進まなくなってしまうと言われる。共同研究者の警察関係者人脈と迅速な対応で早期発行が可能になった。

(6) 18日火曜日、戸籍抄本を家人が大使館宛てに郵送し、わたしは一式書類を持参して大使館へ。翌日19日水曜日に新しいパスポートを発行してもらうことになった。コストは約1万ルピー。共同研究者が指導している院生から携帯電話とそのためのSIMカードを入手した。

(7) 19日水曜日、パスポートを大使館で入手。さらに、前日配送されたクレジットカードを共同研究者から受けとる。JNUに戻ってきて、入管(Foreigner Regional Registration Office: FRRO)でのビザ新規発行に向けた書類の準備(在外研究先のJNUからの居住証明書の発行)を行う。

(8) この間、日本人の知人に日本語版のラップトップを日本で購入してもらい、インドに持ち込んでもらう。さらに、友人知人から現金を合計8万円ほど借り受けた。

(1) から (8) までの事件後の経緯をみると、多くの方のご協力を得ていることをあらためて実感します。わたしは、事件発生日の1週間後からインド国内出張を予定しており、すでにインタビューのためにたくさんのアポイントメントをとっており、なんと少しでも、早急にクレジットカード・パスポート・FIR (犯罪被害証明書) の3点が必要でした。外国人がホテルに宿泊したり、飛行機に搭乗したりするときには必ずパスポートが必要になりますし、そのときにはパスポートにビザと入国スタンプがないと宿泊させてもらえませんが、搭乗もできません。ビザと入国スタンプがないパスポートを利用するためには、その理由を示す FIR が必要になります。また、FIR は、パスポートの再発行、盗難被害の保険金請求、入管のビザの再申請などにも必須の重要書類です。

実は、インドでは、この FIR を警察から取得するのが極めて難しいのです。ある警察署が FIR を発行することは2つのことを意味します。第1は、窃盗犯罪捜査を開始するということです。刑事の人員や予算に限られているなか、犯罪捜査を新たに開始するのは警察署にとって業務負担増を意味します。第2は、この FIR を通じてある犯罪が「認知」され、犯罪統計の対象になります。このことは、FIR を発行した警察署が管轄している地域での犯罪発生件数が増えることを意味します。

要は、警察は FIR の発行を、犯罪被害者と全く異なる観点から裁量的に行う誘引がある、ということです。実際、わたしとは異なるケースですが、同じ時期に、インドに駐在しているわたしの知人がスリの被害に遭い、パスポートを盗まれたことがありました (本当に、インドは窃盗被害が多いのです)。このとき、被害届けを出しにいった警察からは、犯罪被害を証明する FIR を出すのには時間がかかるが、紛失物届けならすぐに受理すると誘導され、実際にはスリの被害であるにもかかわらず、紛失証明書を取得せざるを得ませんでした。窃盗の被害者からすれば、FIR であろうが紛失証明書であろうが、盗難保険金の申請、パスポートやビザの再申請などで何ら不利になることはありません。わたしの見るところ、多くのインド駐在の外国人は被害が窃盗レベルであれば、紛失物届けで事を収めているように思います。それと、警察の職員や刑事の多くがヒンディー語しか話せないことも、外国人が FIR を取得するうえで大きなハードルになっていると思います。

さて、わたしが取得した FIR は、1860年インド刑法の379条「窃盗に対する懲罰」に基づき発行されたものです。それを図表7で示しています (関係者氏名と住所については、覆面処理しました)。

図表 7 : 犯罪被害証明書 (First Information Report: FIR)

FIRST INFORMATION REPORT
(Under Section 154 Cr.P.C.)

CIPA-R1.11 00

1. District: South East District P.S: SUNLIGHT COLONY Year: 2014 FIR No.: 736 Date: 15-11-2014

2. Act(s): Section(s):
 (i) Indian Penal Code 1860 379
 (ii)
 (iii)
 (iv)

3. Occurrence of Offence:
 (a) Day: Saturday Date From: 15-11-2014 Date To: 15-11-2014
 Time Period: Time From: 16:45 hrs Time To:
 (b) Information received at P.S: Date: 15-11-2014 Time: 19:20 hrs
 (c) General Diary Reference: Entry No.: 19A Time: 19:20 hrs

4. Type of Information: WRITTEN

5. Place of Occurrence:
 (a) Direction and Distance from P.S: Beat No.:
 (b) Address: RING ROAD NEAR SUN GADHI OPPOSITE BALA SAHIB GURUDWARA, SUNLIGHT COLON
 (c) In case, Outside the limit of the Police Station:
 Name of P.S: District:

6. Complainant/Informant:
 (a) Name: [REDACTED]
 (b) Birth Year: Nationality: INDIA
 (c) Passport No. Date of Issue: Place of Issue:
 (d) Occupation:
 (e) Address: A [REDACTED]

7. Details of Known/Suspect/Unknown accused with full particulars(attach separate sheet if necessary):
 (i)
 (ii)
 (iii)

8. Reason for delay in reporting by the complainant/informant:

9. Particulars of the properties stolen/involved(attach separate sheet if necessary):

Sl.No.	Property Type(Description)	Est. Value(Rs.)	Status
(i)			
(ii)			
(iii)			

10. Total value of property stolen:

11. Inquest Report/U.D Case No., if any:

-- 1 --

12 - F.I.R Contents(attach separate sheet,if required):

To The SHO Sunlight Colony New Delhi 15.11.2014 Sub: Two Bags Stolen Sir Prof. Takahiro Sato (Kobe University) and [redacted] are visiting scholars to JNU and [redacted]. They were travelling from India International centre to Noida in innova car. A puncture was brought to the attention by a motor cyclist at the U turn of Sarai kala khan around 4:45 PM on 15.11.2014. The driver stopped ½ KM towards DND to change tyre. While tyre was being changed both of them got off the car. A young man engaged in a conversation for a minute or so. On boarding the car they found two bags missing. Prof. Sato's bag contained 1. Passport 2. Credit card visa 3. Cash card city bank and SMBC 4. Laptop Panasonic 5. USB Reliance dongle 6. Mobile Noikia (918010891334) 7. Camera - Ricoh 8. Keys guesthouse JNU. 9. Pursue 10. Rs 30,000/- cash (Thirty) 11. New travel bag (Green Colour) SD ENGLISH TAKAHIRO SATO Room No: 011 Aravali International Guest House Jawahar Lal Nehru University, New Delhi Jaabani [redacted] to, the Duty Officer, P.S. S.L. Colony, New Delhi to registered a case U/S 379/ IPC and investigation handed over to me. Date & time of occurrence : 15/11/2014 at about 4:45 PM Place of occurrence : Ring road near sun gadhi opposite bala sahib gurudwara Date & Time of handing over Tahrir :15/11/2014 at 7:15 PM SD ENGLISH S1 Avinash Kumar dt 15/11/2014 D 3435, PIS. 16100204 PS. S.L. Colony New Delhi dt 15/11/2014

13 - Action Taken(Since the above information reveals commission of offence(s)/u/s as mentioned at item No.2:

(i) Registered the case and took up the investigation

OR

(ii) Directed(Name of the I.O): AVINASH KUMAR
No.: 16100204

Rank:
to take up the investigation, OR

(iii) Refused investigation due to:

OR

(iv) Transferred to P.S.(name):
on point of jurisdiction.

District:..

F.I.R read over to the complainant/informant, admitted to be correctly recorded and a copy given to the complainant/informant, free of cost:

R.O.A.C:

14 .

Signature / Thumb Impression
of The Complainant/informant:

Signature of Officer
Name: MUNENDER KUMAR
Rank: No.: 28890479

15 - Date and Time of despatch to the court:



幸運なことに、わたしはインド人の共同研究者の助力でこの FIR を最短時間で取得できました。当初、警察署をたらい回しされるのではないかと思いましたが、そうはならなかったですし、その後、サンライト・コロニー警察署の刑事が大変協力的でした。その理由は、共同研究者が警察官僚トップと懇意にしていたこともありその口利きが有効だったことと、警察署職員や刑事に対してわたしがナレンドラ・モディ首相とも付き合いのある日印経済の重要人物であるという脅し文句を使ったことにあるかもしれません(もちろん、

わたしは何らの重要人物でもありませんが)。

さて、わたしは、クレジットカード・パスポート・FIR を入手することに成功し、その後、インドのムンバイ・プネー・バンガロール (2回)・チェンナイ・ビジャカパトナム・コルカタなどのデリー首都圏以外の地域への国内出張を無事実現することができました。進行中の研究資料が入っていたノートパソコンを盗難されたことはたしかに研究論文執筆という点では大変なダメージでしたが、その分、日本では決してできない聞き取り調査や地場資本が経営している工場見学を多数行うことができたのは、長い研究生生活のうえでは大変有意義だったと思います。

タイヤ・パンク・ギャングと裁判所への出廷

3ヶ月未満という短期間のジャワハルラール・ネルー大学 (JNU) での在外研究期間もあと3週間で終えるようなタイミングで、わたしは最後の国内出張に出掛けていました。この最後の国内出張中に、謎の人物からわたしのバックパックとパスポートを入手した、という連絡が Facebook と電子メールを通じてやってきたのです。2014年12月26日のことでした。

*From: "**** *****" <*****@gmail.com>*

Date: 26 Dec 2014 19:27

Subject: Missing passport, bank cards..n a laptop

To: <takahirodevelop@yahop.co.jp>

Cc:

Sir Takahiro Sato. ...I would like to inform u That i Hav founded ur Passport n ur Credit cards...n a laptop...

*Myself **** ***** I'm frm India.,Delhi. ..*

Kindly Reply.as u received the Email...

謎の人物は、わたしのパスポートと名刺からわたしのメールアドレスを知り、さらに、Facebook で友達申請してきたのです (謎の人物の名前は**** *****と覆面処理しました)。わたしは、彼には、感謝の言葉を言い、いまデリーを離れているのですぐに対応できないが、わたしがデリーに帰るまでわたしのバックパックを保管してほしい旨、返信しました。さらに、彼はつぎのメールで、写真を送ってきました。

図表 8 : 謎の人物から送信された窃盗被害にあったパスポートの写真



彼が、わたしのパスポートを持っていることは確実でした。わたしのインド出国日は1月16日で、デリーに戻るのは1月7日深夜でした。

Facebookでも、わたしはこの謎の人物にお礼を述べましたが、その後、この謎の人物の友人たちから多数の「いいね！」が付き、彼らがわたしに次々に友達申請してきたのも驚きました。

わたしは、ノートパソコンは2度と戻ってこないものと思っており、もう完全にあきらめていたところでした。それが戻ってくる可能性が出てきた、ということで、落ち着いたかない気持ちになりました。

さて、わたしは、インド人の共同研究者の先生にすぐに相談し、先生も警察官僚トップに相談しました。結局、その後、わたしはこの謎の人物とは一切連絡をとらずに、デリーに戻った翌日2015年1月8日にサンライト・コロニー警察署に相談しに行きました。謎の人物がわたしに知らせてきた携帯電話番号は本物のようで、刑事は電話を通じて彼に職務質問しました。どうやら、まだ、バックパックを保管しているようでした。同日の夕刻、この刑事が謎の人物から盗難品を没収してくれたのです。謎の人物は、道端でわたしのバックパックを拾ったと証言したそうです。

さて、没収された盗難品を、わたしが警察署から直接受け取ることはできません。裁判所での判事の決裁が必要になるからです。翌1月9日、盗難品がわたしのものであることを証明するためにサケット県裁判所へ出廷しました。かなりたくさんの書類を裁判所内にある法務書類専門のエージェントに準備してもらい、それらを提出し、サンライト・コロニー警察署担当刑事が判事に、事件の顛末とこれがわたしの物であることを証言してくれました。刑事は、判事からの質問にもはっきり答えてくれ、判事から決裁が降りました。下記の写真は、わたしが出廷した法廷と極めて良く似ています。実際に、ここに出廷したかもしれません。

図表 9 : サケット県裁判所の法廷



資料 : <http://delhifamilycourts.gov.in/images/saket.jpg>

警察署に引き渡されたわたしのバックパックを、共同研究者の先生が1月10日に受け取り、翌11日わたしが引き取ることができました。先生と一緒に中味を確認しましたが、驚きました。わたしがバックパックの中に入れていた複数のジップロックの袋のなかに、ギャングにとっては不要な名刺やカードなどが綺麗に整理されて収まっていました。それは、几帳面というよりもむしろプロの窃盗集団の手際を彷彿させるものでした。問題のノートパソコンでしたが、電源を入れたら普通に起動しました。これは本当に嬉しかったです。

さて、最終的な被害は、現金（6万円相当）・デジタルカメラ・ペン・USBメモリ・財布・名刺入れでした。財布は、わたしにとってははかなり高価なもので家人がインドに来る直前に購入してくれたばかりのものでした。返ってきたものは、パソコン・名刺・ゲストハウスの鍵・シャーペン・ハンコ・各種カード・パスポート・携帯電話でした。返ってきた携帯電話ですが、インドの若者は全く見向きもしない古いタイプのノキアの最安値携帯でした。携帯電話については中古価値がほとんどないものと考えて良いのですが、このなかで、ノートパソコンだけは例外的です。一体どうして、ノートパソコンに彼らは手を付けなかったのでしょうか。わたしの考えを記しておきます。

図表10は、2015年初旬にタイヤ・パンク・ギャング (tyre puncture gang) をグーグルで検索した結果です。93200件もの大量の記事がヒットします。これらの記事のいくつかを読むと、わたしが遭った犯罪被害が決して特殊なものではないことがわかります。ギャングは、数人のチームで周到にかつ大胆に犯罪を実行するプロの窃盗集団であることがよくわかります。わたしのケースでも、おそらく、(1) タイヤのパンクを仕掛ける人間、(2) タイヤのパンクをターゲットとなる人物に良いタイミングで知らせ、然るべきポイントに駐車させるように誘導する人間、(3) タイヤ交換中に注意を逸らす人間、(4) 注意を逸らしている間に車から貴重品を盗む人間、(5) 盗んだ貴重品を受け取って転送する人間 (複数人で盗んだ貴重品を転送するらしい) が関わっているはずですが、手際の鮮やかさやそのチームワークには脱帽します。子供のときにみたルパン3世やキャッツアイのような印象です。ギャングたちについては、不思議なことに、わたしは腹立たしい思いは全くありません。われわれを傷つけず、その窃盗手口があまりに素晴らしかったのが理由です。いまだに、わたしはギャングたちを恨んだりしていません。

図表10：タイヤ・パンク・ギャングの検索結果

The screenshot shows a Google search for "tyre puncture gang". The search bar contains the text "tyre puncture gang" and a search icon. Below the search bar, there are navigation tabs for "ウェブ", "画像", "動画", "ショッピング", "ニュース", "もっと見る", and "検索ツール". The search results are listed below, showing approximately 93,200 results in 0.28 seconds. The first result is from The Hindu, dated 2014/09/20, reporting that the South Delhi Police recovered gold worth over Rs.2 crore from a gang of robbers who used to trap jewellers by puncturing their vehicles. The second result is from Indian Express, dated 2014/08/28, reporting that a 22-year-old man, the leader of a bag-lifting gang, along with his three juvenile associates were arrested on Tuesday. The third result is from Zee News, dated 2013/02/15, reporting that three juveniles of a 'tyre puncture gang' were held in Delhi. The fourth result is from Zee News, dated 2013/05/06, reporting that two minors of a 'tyre puncture gang' were apprehended for stealing. The fifth result is from Business Standard, dated 2012/08/19, reporting that three members of a 'tyre puncture gang' were arrested. The sixth result is from Business Standard, dated 2015/03/19, reporting that a man was robbed of Rs 90K by a 'puncture gang'.

資料：グーグル。

わたしにメールを送信したり Facebook でコンタクトとってきた謎の人物は、おそらく、タイヤ・パンク・ギャングの一味なのでしょう。唯一の金目のものであるノートパソコンを餌に、わたしから高額な謝礼をとろうと企んだのではないのでしょうか。中古市場で売りさばくよりもっと高い謝礼がもらえることを期待したように思います。もちろん、善意の第三者であることも否定できませんが、盗難品が返却された後は一切メールを書きませんし、Facebook 上でもブロックすることにしました。

さて、警察は、押収した盗難品の指紋採取や謎の人物に対する取り調べなどを行った形跡は一切ありませんでした。インドの新聞などでしばしばインド警察の捜査ミスを非難す

る記事を見かけることがありましたが、わたしも、インド警察の捜査能力の一端を知ることになりました。

おわりに

わたしがこうした犯罪被害に遭ったことを、在外研究期間中のインド国内出張中にお会いした様々なインド人の方にお話してきた。多くのインド人の方も、「実は、わたしも」、あるいは「わたしの家族も」と同様の窃盗被害に遭ったことを告白してくれました。インドに住んでいたら、窃盗被害から無縁な人間は一握りなのかもしれません。

以上のように、インドでの犯罪による被害を身をもって体験したわけですが、実は、わたしは、早稲田大学の加藤篤史教授ともうかれこれ9年近く、犯罪がインド経済に与える悪影響を定量的に計測する研究に従事してきました。深刻な犯罪被害に遭ったわたしが落ち込むことなくインド国内で充実した聞き取り調査や工場見学などを実施できたのは、この犯罪被害は自分自身の研究にとって貴重な経験になるのではないかと、思っていたからだと思います。実際、文献研究やデータ解析からは決して得られない体験をしたことは間違いないです。下記の参考文献に加藤教授との共同論文一覧を示しました。ご関心のある方がおられましたら、ご笑覧いただければと思います。

最後に、この場をお借りして、2014年10月から2015年1月までの在外研究を助成頂きました六甲台後援会の皆様、わたしが犯罪被害に遭ったときに物心両面で支援頂きました皆様に感謝の意を表したいと思います。

参考文献

Atsushi Kato and Takahiro Sato (2016), "Violent Conflicts and Economic Performance of the Manufacturing Sector in India," RIEB Discussion Paper Series, DP2016-01, 44pp.

Atsushi Kato and Takahiro Sato (2015), "Greasing the Wheels? The Effect of Corruption in Regulated Manufacturing Sectors of India," *Canadian Journal of Development Studies*, Vol.36 (4), pp.459-483.

Atsushi Kato and Takahiro Sato (2014), "The Effect of Corruption on the Manufacturing Sector in India," *Economics of Governance*, Volume 15, Issue 2, pp 155-178.

Atsushi Kato and Takahiro Sato (2013), "Threats to Property Rights: Effects on Economic Performance of the Manufacturing Sector in Indian States," *Journal of Asian Economics*, Vol.26, pp.65-81.